



2023年8月25日
第22号

JR 東労組 Yokohama

JR 東労組横浜地本
発行人 助川一実
編集 情宣担当
ホームページ
<http://www.jreu-yokohama1.jp/>



イーハトーブ

8月25日号

今年の夏は、温暖化が進行していると体感で分かるほど高温が続いている。そして台風が東海・近畿・中国・四国地方を縦断し交通運休が相次いだ。そのような中、8月15日は戦後78年の終戦の日を迎えた。

わずか78年前に米国の原爆が6日と9日に広島と長崎に投下され、その熱線と放射線または爆風により多くの犠牲者を出した。いまだに被爆者たちは身体的や精神的な痛みなどの後遺症に悩まされていることを忘れてはならない。

今、世界ではロシアによる非道なウクライナ侵攻と核兵器による脅しが続いており、核保有国が核戦力の大幅な増強を図るなど、核兵器を巡る安全保障環境は厳しくなっている。この瞬間も命を落としているウクライナ市民が多くいる。核兵器は人類滅亡の可能性をはらんでいることは事実であり、核兵器の廃絶を目指していくためにも安全保障のあり方の見直しなどを国際社会と共に一致していかなければならない。

岸田首相は8月15日、全国戦没者追悼式に参列し式辞を読んだ。昨年戦争の惨禍を二度と繰り返さないと誓ったはずだったが、岸田政権はこの間、防衛費の増や敵基地攻撃能力の保有といった専守防衛を形骸化させかねない安全保障政策の転換を相次いで行い、動し発言と実際の行動が乖離していたことが明確になった。あたかも戦争準備のような政策が着々と進められ、防衛費の増、武器輸出の解禁の方針を示しており「不戦の誓い」とは真逆な平和憲法そのものを変質させ歪めてきている。しかし、多くの国民は平和への思いを強めている。戦後に平和が続いたのは戦争放棄を明記した憲法9条を守り続けてきたおかげであり、世界に誇るこの日本国憲法をしっかりと守り続けていくべきである。

私は一切の戦争政策には反対である。そして戦争こそが大量の炭素を排出し地球温暖化を助長しており気候変動の複合的な苦境を増大させているのだ。この社会に対して幻想を持つのではなく、あきらめることなく、声を出しつづけてたたかい抜いて平和な社会を作るために実践していく。

イーハトーブとは

「注文の多い料理店」や「雨ニモマケズ」などの著者として有名な宮沢賢治による造語です。故郷の岩手県をモチーフとし、彼の心の中にある理想郷を示す言葉です。

社会に目を向け、新しいものを積極的に取り入れ、農民の生活向上のために最後まで尽力した宮沢賢治の生き方に学びながら、私たちが外に目を向け、私たちが安心して働き暮らせる理想郷を実現していこうという想いを込め、イーハトーブというタイトルで情報発信を行っていきます。